

# 1月の職員オススメ本



「未来への人生ノート」 清水 晴木／著 幻冬舎

就活の不安を抱える大学生たちに、就活サポーターが手渡したのは一冊の「人生ノート」。そこに自分の言葉で書き込むうちに、彼らは”自分探し”の旅へと踏み出していきます。4人の若者がそれぞれの悩みと向き合いながら、自分らしい未来を見つけていく姿に、思わず胸が熱くなりました。就活だけではなく、人生の節目に立つ全ての人に読んで欲しい、心に染みる青春小説です。



「こだま標本箱」 谷 瑞恵／著 徳間書店

常葉百絵は5歳の息子・太貴と暮らすシングルマザー。とある理由で東京から引っ越さなければならなくなったのだが、百絵が働き始めた『喫茶こだま』のオーナー・賀見社は「伝説収集家」として、伝説を集め買い取り、標本にして店内に飾っていた。非科学的な事を信じていない百絵が、賀見社の手伝いを始めたことで少しずつ意識が変わっていく。失ったものを抱え生きる人々の心に、優しくこだまする癒やしの物語。



「ニッポンのおみくじ」 錦木 麻矢／著 グラフィック社

初詣で1年の運勢を占うほかにも、実はいつでもどんなことでも占えるおみくじ。昔ながらの伝統的なおみくじから、可愛い人形や食品に詰められたものなど、全国各地のさまざまなおみくじや、おみくじの雑学なども紹介されています。